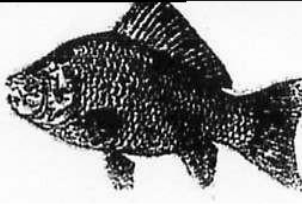


川づくり  清瀬の会

会誌 第23号 2014年 9月発行

発行者：宮澤とよ美 編集者：会誌編集委員会 連絡先：042-491-3616



「柳瀬川回廊」春の風物詩 カルガモ親子のお通りです。
(撮影・文：石井芳男)

目 次

| | | |
|------------------------------------|--------|----|
| 柳瀬川・空堀川合流点工事の現状 | 宮澤 とよ美 | 2 |
| 夏の柳瀬川回廊を歩く | 大谷 郁夫 | 5 |
| 2014年全国一斉水質調査に参加して | 木村 芳信 | 6 |
| 三富新田とくぬぎ山・・・歴史と保全活動 | 森 斌 | 7 |
| 戦後 69年目の夏を迎えて思うこと | 大谷 恒子 | 10 |
| 第4回講演会 滝之城址近辺の歴史 (坂間和英講師) | 丸山 隆 | 12 |
| 清瀬の水事情物語 (4) | 小西 一午 | 14 |
| きよせの環境・川まつり (川遊び) | 金内 彰 | 15 |
| きよせの環境・川まつりを終えて | 宮澤 とよ美 | 16 |
| 川遊びの原点は・・・荒川 花子とアンの地元・山梨が私のふるさと | 深澤 昌子 | 17 |
| 河川と自然シリーズ⑩ ウマノスズクサ | 田中 くに子 | 18 |
| 川と温泉⑥ (つたの湯) | 木村 芳信 | 19 |
| 我が家の動物記 | 戸塚 弘 | 20 |
| 2014年度活動記録 (1月～8月) | 宮澤 とよ美 | 22 |
| 事務局だより | 宮澤 とよ美 | 25 |
| 編集後記 | 金内 彰 | 26 |



柳瀬川・空堀川合流点工事の現状

宮澤 とよ美

24年3月の水理模型実験以来空白であった新合流点工事の話し合いも、予告もなく平成25年12月12日に26年度以降の合流点工事の説明会が開かれました。

そこで提示された設計図は、これまで計画にもなかった4m巾、長さ20mの緊急通路橋が描かれ、当会が求めていた自然護岸と河畔林保護等環境に配慮をした工事とは大変かけ離れたものでした。

翌13日緊急幹事会を開き早速検討、これまでの話し合いで合意形成された案件の幾つかが反故にされていること、特に大きな課題は現柳瀬川への流入口が分流施設で極端に狭められ、分流施設と分流堰の基礎工事が左岸水際よりかなり河畔林寄りに計画され、そのままでは河畔林の破壊が予想されるものです。

当会は、島谷九州大学大学院教授、コンサルタント吉村先生から、多自然川づくりポイントブックに沿い、1、山付部河畔林は、保全が原則。2、これ迄大きな侵食を受けていない河岸などは護岸を入れないこと(手をつけない)。3、河岸防御が必要な場合は、捨石で済むのではないか。4、分流堰はコンクリート建造物にするより、分水地点下流側(バイパス)に礫を敷き詰めて瀬のような形にするのが望ましい等のご指導を受け、これまで一貫して多自然川づくりを求め、地域住民の懇談会時から要望書を出し続けています。

26年2月25日および3月19日の2回話し合いの場を持ちましたが、全く答えて頂くことができないまま、北々建の担当者は2度代わり、現在の荒川課長になりました。その後、5月16日・7月18日・9月3日の3回、特に課題となる分流施設について改善を求めましたが今現在全く地元の要望は入れられず、工期遅れを理由に着工をしようとしています。

その間近郊にはまれとなる河畔林保護を求め、6月市議会に請願書を提出、全市議の賛成を得て採択され、中澤副市長が何度も設計見直しを求めて北々建に向かってくださいましたが、治水を理由に受け入れられず、当会は危機感を持ちこれまで経験のない署名活動に入り、会員皆様の熱い思いで約3600筆(自然を守る会220筆を含む)を集め、特に宮崎駿監督の署名に励まされ話し合いを重ねてきました。ですが北々建は洪水時の流速を1.8m/s~2m/sに抑えるため、分水流量を25t/sと定めて水理模型実験を24年3月に行い、その結果を唯一の物とし当会の提案は議題にも載せません。

実験場に設置された10分の1の模型は、現実の川とはかけ離れ、淵も瀬もないコンクリート製で只々流れ下るもの、そんな実験結果を根拠にした施工ではなく、河川工学ご専門のアドバイザーの意見を求め、清瀬市民が求める川づくりをするために検証が必要ではないでしょうか。現柳瀬川の複雑な断面形状に対しての不等流計算が行われ、その上の数値であることを重ねて求めています。現在の河川法では地元自治体および市民と協働で川づくりをしてゆくことが求められています。確かに話し合いの場まで8か月で5回北々建は出

向いてくださいました。ですが、地元市民の要望や提案を話し合う雰囲気ではなく、説明の繰り返しの場となり、合意形成を見ぬまま着工に向け進めようとしています。それでも「話し合いをしました」ということになるのでしょうか。この話し合いに強く望んだことは、実績豊かな吉村先生をアドバイザーとしてお迎えすることでしたが、北々建はそれを認めることはせず、本当にいい川づくりをしようという意志が見えないことです

下記はこれまで説明を聞き、河川管理者に提出した質問書の概略です。

東京都北多摩北部建設事務所 荒川工事第二課長殿 川づくり・清瀬の会 宮澤とよ美

このたびの合流地点の環境は、川の流れがつくる豊かな緑と四季を通して保存すべき野草に恵まれた河畔林で構成されています。当会は、調節池の生き物の多様性を河川の上・下流につなげることの出来る、今では貴重なこの護岸と河畔林を現況のまま手を付けず後世までも保存できますことを強く願い活動をしています。

◆提示された設計図の課題の中から。まず分水施設について 再度お尋ねいたします。

分水施設の役割は、洪水時の流速を 1.8m/s～2m/s に抑えるため、分水流量を 25t/s とし、そのシミュレーションでは、太陽園前の川越県土がすでに工事済みの箇所からその前方保護を目的と 16 日に説明があり、その箇所にこそ工事完成後侵蝕の恐れが生じたとき、適正な水制を考えたら如何ですか。あるいは現在流芯をブロックで強引に変えています、護岸の洗屈があれば流芯を調節するなどの工夫でよいのでは。

現状のまま残したい天然護岸と河畔林は、当然河川巾や河床巾又護岸斜度も一様ではなく、斜度によって河畔林密度や植生も違い大きな魅力となっています。現在の護岸や河畔林の変化が**粗度係数**をあげ、これまで説明の 80 m³/s の流下能力を背負っていたのではありませんか。

分水工設置理由は、水理模型実験で 25m³/s が大前提になっています。まず洪水時流量 25t/s の根拠を示してください。守るべき左岸に分水施設や堰の基礎と護床ブロックの敷き詰めをして、護岸や河畔林を守るためという説明はどうしても納得がゆきません。人工工作物や護床ブロックの設置は河川環境の破壊につながり、地元に大きな負の遺産として残されます。

近年、各河川では行政と市民が協働、その多くは経験豊かなアドバイザーさんも交えて、多自然川づくりを行っています。多自然川づくりは工事後様子を観察し手を加えながら完成させるとも聞きます。これからの検討会が実りあるものになりますよう、是非アドバイザーさんの同席をお願い申し上げます。次回の検討会のご連絡お待ち申し上げます。

平成 26 年 5 月 21 日

東京都北多摩北部建設事務所 所長 殿 川づくり・清瀬の会 宮澤とよ美

◆ 7 月 18 日の説明を受け下記質問に対しご解答お願いいたします。

1、 現柳瀬川の最大流下能力 80t/s は、断面毎に安全な水位と流量の測定のもとに、現断面で安全に流すことのできる流量(現況流下能力)だと思いますが、説明の中ではいつもそれが否定されています。北々建では現柳瀬川の適正流下能力をどの位と見えていますか。

- 2、「最小流下能力 30m³/s の箇所と伺った雨水排水口近辺、所沢からの雨水が 50t/s との説明です。その流入経歴と通常の雨水流入量の数値を提示ください。
- 3、23 年2月8日の第 2 段階懇談会で、現柳瀬川への流入幅を 3.4m とすることに対し、「現河道幅のまま分水し、通常の流水はもちろんのこと、洪水時も応分の増水を流下させ、現柳瀬川の河川環境を保全してください」のお願いに対して、23 年2月 23 日、北々建に呼び出しされ、「自然河岸を守るためにある程度流速を(1.8~2m/s?)に抑える必要があり、流入量を抑えて流速を制御しなくてはならない。流速を 2m/s に抑えるのには現時点で超概略の試算から流量を 25t/s 程度にする必要がある」と返答されました。同時に「これは試算でありこれから検討し精査してゆきます」と約束されています。どの時点で精査をされ、どのような計算式で現在主張される流速:1.8~2m/s、流量:25t/s に確定したのでしょうか。流量 25t/s を根拠に水理模型実験が行われています。その数式を明示してください。
- 4、護岸・河畔林保護のための分水施設とご説明ですが、この図面では時を得て河畔林破壊と受け取れます。流水の乱れ、水衝部への強い当たり等、河川用地の活用(必要分だけ河床拡幅)と構造や建材の工夫で改善は可能では。河川用地の余地活用は河畔林を保全するためにと一度は合意された案件です。護岸・河畔林を現状のまま後世まで保存をと願う当会と、3600 名の署名者に応えてください。

平成 26 年7月 19 日

以 上

それに対する回答は下記の通り、洪水時の危険箇所や現柳瀬川への最大流下能力等毎回説明が違い戸惑いを感じます。

平成 26 年 8 月 14 日

工事第二課長 荒川 晴夫

お問い合わせのあった事項について、次の通り記させていただきます。

1、現況流下能力について 分流箇所から下流の現柳瀬川の現況流下能力は、約 30m³/s です。

2、下水流入量は 現柳瀬川に接続される下水道の流入量は、最大約 9m³/s です。

3、現柳瀬川に分配する流量および 流速の根拠

現柳瀬川において、自然河岸の洗掘や流出を防ぐためには、増水時の流速を 1.8~2.0m/s 以下にする必要があります。一般に、流量が増えると流速が早くなります。流速が 1.8m/s 以下となる流量を不等流計算により算出すると、25m³/s 以下となります。計算結果の妥当性はシュミレーションにより確認されます。以上のことから、現柳瀬川への配分流量 は 25m³/s と定めます。

4、流水の乱れ、水衝部への強い当たりについて

計画している分水施設については、水理模型実験結果から、洪水時の河畔林前面の水位が整備前より下がることや、分水箇所での流況が、分水施設を実施しない場合に比べ穏やかになることから、河畔林への影響は少なくなります。

以上

9月4日の幹事会で、やはり当会が納得行くまで、可能な限り活動をしてゆこうと決まりました。荒川課長から、他の箇所については、吉村先生のご意見も含め検討をしましょうの一言がございました。悔いのない川づくりを求めてどうぞご協力をお願い申し上げます。

夏の柳瀬川回廊を歩く

大谷 郁夫

野塩・梅坂橋のたもとに引っ越してきて早いもので7年目に入りました。玄関を出ると足元に何か黒いものが、良く見るとそこにクワガタの子供が一匹。マンションの建物が古いせいか4階ベランダ上部の隙間にすずめが巣を作り、親すずめが毎日せっせと餌を運び、その後、無事巣立って行きました。マンション裏手の明治薬科大学のキャンパスでは、終日うるさいほどの蝉しぐれ。マンションの階段を降り、空堀川の梅坂橋を渡ると、いつのまにか雑木林の中に突入（中里緑地保全地域）

そこでは、ウグイス、コジュケイ、シジュウカラ、ムクドリ、コゲラ、ヒヨドリ、カッコウ及びオオタカなど色々な鳥たちが飛びかっています。また、家の前の空堀川ではカルガモ、ササゴイ、コサギ、セグロセキレイ、カワセミなどの鳥たちが飛来します。木の上から、カワセミの子供が、水中の魚を捕獲するため、何回も水に飛び込むも失敗に終わる。その光景に遊歩道を行き交う人達の足が釘付けになる。清瀬に越して来た頃は、鳥や魚、草花の名前がまったく判らず、まして鳥の鳴き声は判別できませんでした。遊歩道を行き交う人達から鳥の習性や鳴き声などを教わり、また、自然を守る会の鳥の観察会などに参加するうち、四季折々の鳥の名前が少しずつ判ってきました。特にコジュケイの鳴き声は独特で、“いっこくれ”又は“ちょっとこい”と聞こえ、けたたましく鳴きます。カタクリ・C地区で、コジュケイを毎日ストーカーしている人の話によるとコジュケイ（キジ目キジ科、全長27cm、中国より移入）の顔は、とてもやさしく、可愛いそうです。

梅坂橋（空堀川）からせせらぎ公園、清瀬橋（柳瀬川）、松柳橋、金山緑地公園・調節池、台田団地・運動公園、滝之城址公園、関越をくぐり、下宿のピオトープ公園までを「柳瀬川回廊」と呼ばれています。（片道約4km）そのスタート地点が中里緑地保全地域（別名：おばけ山と呼ばれる）で、夏は比較的涼しく、朝から涼みにやってくる人達が結構います。

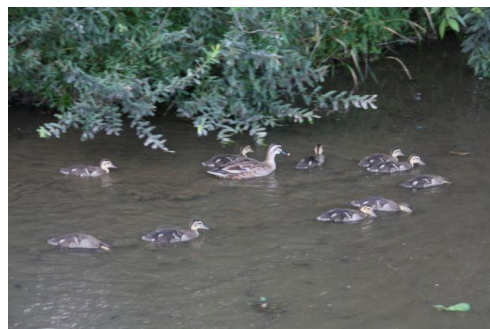
ここはカタクリのA地区とも呼ばれ、毎年3～4月にカタクリまつりが開催され、近隣の市をはじめ遠方からも多くの人々が訪れ、清瀬市の大きなイベントの一つになっています。

足腰を鍛える目的で、毎朝5時に起きて、梅坂橋から清瀬橋、金山調節池、所沢農道を経て滝之城址公園までの川沿いを歩きます。（所要時間往復：約2時間、約12000歩）この間、毎朝、30～40人前後の人たちと挨拶を交わします。結構忙しい。



柳瀬川回廊の案内板

毎年5～7月の子育ての時期にたくさんの雛を従え、川中を移動する親子のカルガモがそこかしこで多く見られます。その光景を遊歩道から覗き込む人たちがあちこちで見られ、とても楽しいひとときです。



カルガモの親子

金山調節池では、カメラマンが早朝から数多く陣取り、一日中、カワセミを追っかけています。調節池の上を、あまり注目されない大きなダイサギが旋回し、高い木のとっぺんにとまる様子などを見るにつけ、「柳瀬川回廊」は、あらためてすばらしい所だと痛感しました。

川づくり・清瀬の会に入会し、河川の清掃作業、魚類調査のほかきよせの環境・川まつりなど河川に係る各種イベントに参加しています。また、清瀬市・レンジャー活動にも参加し、週1回、月3～4回程度、柳瀬川回廊全域のゴミ拾いを行っています。活動中、色々な草花に出会い、仲間内で「身近な野草・雑草」（主婦の友社編）等を持ち寄り、名前を覚えませんが、効果はさっぱりです。しかしながら、四季を通じ、色々な草花が清瀬一帯に咲き乱れることを知りました。

春のカタクリからはじまり、サクラ、夏のひまわり、キツネノカミソリ、秋のヒガンバナと、きりがなほほど沢山の草花が咲き乱れます。ゴミ拾いをしながらの草花鑑賞、仲間内の情報交換など楽しい時間帯です。清瀬市内が綺麗だともっと楽しいのですが。

2014年全国一斉水質調査に参加して

木村 芳信

今年は大雨の影響で6月の第1週の予定が2週目にずれ込んだ影響で予定した班構成で行えませんでした。4班が2班になり少人数の上、水量も多く川の中に入るのが危険な為に、一部の測定ができませんでした。しかし予定していた測定場所は、老骨に鞭打って頑張ったかいがあり無事終わらせることができました。全体的に昨年より検査結果は良好です。空堀川も瀬切れがなく全箇所ですべて測定完了、河川環境を守るために通年の流水を求めて行きましょう。



検査キットで水質を調査

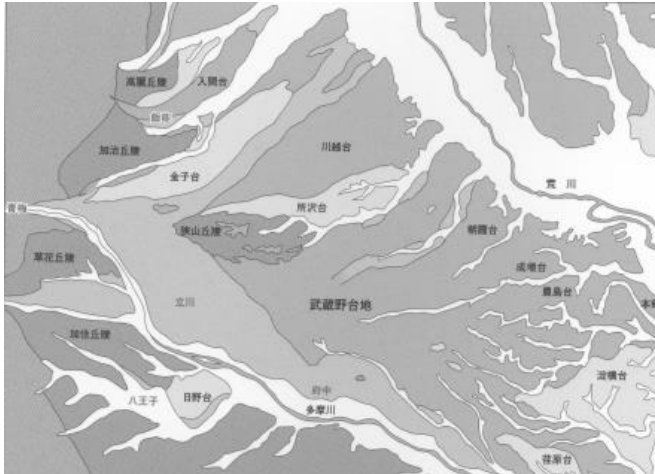
金山調節池は100%湧水ですので、PHの値が、河川水7～7.5に対し例年通りPH6で、近隣土壌の影響を受けていると思われます。

1日中大変な作業でしたが、ご協力くださいました皆様ありがとうございました。調査結果は、ホームページをご覧ください。

三富新田とくぬぎ山・・・歴史と保全活動

2014年3月1日

エコネット とみおか 森 斌



東京の西北部には東京都北多摩地方や埼玉県の入間地方に広がり、荒川・入間川・多摩川に囲まれた、武蔵野台地があります。ここには浅間山、箱根山、富士山等の噴火による火山灰が関東ローム層（赤土）として、場所によっては10mも堆積しています。

この台地はとてもやせている上に水はけも悪く、風の強い日には乾いた赤土が舞い上がり、大雨の日にはぬかる

みとなって人々を困らせ、茅と灌木が茂っているだけでした。

くぬぎ山の南の駿河台遺跡では旧石器時代と縄文時代の遺構と遺物が出土しています。その後、律令時代に設けられた東山道は、畿内と東山道諸国の国府を結ぶ幹線道路で、近江・美濃・信濃・上野・下野・陸奥の各国国府を通り北上盆地内にあった鎮守府まで続いていました。東山道の枝道として上野国新田より武蔵国国府（府中市）に至り、下野国足利へ進むコース（またはこの逆）の東山道武蔵路が設けられました。くぬぎ山の西2kmに幅12mの武蔵路跡が発掘されています。

東山道武蔵路と殆ど同じ所に当時の面影を残した鎌倉街道が通っています。この街道沿いには街道を歩く人達の為に井戸が掘られ、実のなる木が植えられました。

【三富新田】

田という字は、「人が入っていない土地に道を作る。」という意味で、水田だけを指すものではありません。武蔵野台地の新田は殆ど畑です。元禄7年（1694）に川越藩主となった柳沢吉保は、小灌木と草地で入会秣場や小規模の焼畑として使われていただけの荒れた武蔵野台地北部の新田開発に着手しました。川越の約7km南にある富の地藏堂を中心にして巾6間（10.8m）の道路を通し、両側にそれぞれ屋敷、耕地、ヤマ（里山、平地林）を配置しました。1戸分の土地は間口40間（72m）奥行き375間（675m）の5町歩（約5ha）というかなり広いものですが、これはきわめて低い生産性を補う為に必要な広さでした。武蔵野台地の北部、柳瀬川の北側（埼玉県側）には湧水も川らしい川も無く、玉川上水や入間川から用水を引くことも不可能でした。従って開発に一番苦労したのは水の確保でした。そこで11ヶ所の深井戸（深さ約24～30m）を掘り、共同利用としました。又、柳瀬川まで水を汲みに行ったり、茅で体をこすって風呂の替わりにしたといわれています。この

深井戸は螺旋形に降りてから水を汲み上げる為に「七曲の井戸」、「まいまいず（かたつむり）の井戸」とか、掘っても中々水が出ないので「堀兼の井（掘りかねる）」と言う名前です。現在も鎌倉街道沿いには数ヶ所残っています。

ヤマにはクヌギやナラを植え、落ち葉や下草を堆肥として畑に鋤き込み、成長した幹は薪とし、灰は畑に入れて、やせた赤土の茅原を肥沃な黒土の畑に変えていきました。元禄9年（1696）に241戸、914町歩余、3,463石余の上富、中富、下富の新しい村が出来ました。ヤマが広がると地下水位が上がり、その後は普通の井戸で水が汲めるようになりました。

【くぬぎ山】

通称「くぬぎ山」は狭山市、所沢市、川越市、三芳町にまたがる152haの林をさします。「くぬぎ山」地区という名称は、20年前から埼玉県がこの地域の中心にあった狭山市堀兼櫛山を代表的な名称として使ったといわれています。（環境・自然保護等をテーマにしている人たちが、農用林・平地林が今なお多く残るこの地域を保護し、保全していくことを目的に活動し始めた時に付けたともいわれています）



かつては武蔵野のいたるところに農用林はありましたが、農家は雑木林とは言いません。杉や桧などの建築用材と違い、薪を生産し、落ち葉を集め堆肥に使うための育成林でした。その後、家庭の燃料が石油やガスとなり、肥料も堆肥も化学肥料に変わるなど、生活様式・農業方式の変化などに伴って、かつての農用林としての利用がされなくなりました。10年も放っておいた林は陽がささなくても成長する常緑樹やつる草、笹などに覆われ入ることも困難でジャングル化していきました。また農地と違って開発などの都市圧を受けやすかったため昭和40年代以降急速に減少してきました。ただ「くぬぎ山」地域は、農家が多く、駅から遠いため辛うじて残ったと思われます。

【産廃銀座】

使われなくなった林には固定資産税や相続税だけが重くのしかかっています。林は農地と異なり相続税の軽減制度はありません。林は貸したり、相続税を払うために売り出されたりして木が切られ、墓地、工場、資材置き場、ごみ山、産廃施設などに変わっていきました。

1990年代から2000年代初め頃には「くぬぎ山」とその周辺には産業廃棄物焼却施設の煙突が18本も林立し「産廃銀座」といわれていました。煙だけでなく硫化水素や塩化水素等の臭いが充満し鳥も虫たちも姿を見せなくなりました。

1998年ダイオキシン公害調停の申請。裁判、国の規制強化。2003年公害調停終結。等により焼却施設はほとんどなくなり、汚染されていた土壌も徐々に回復し鳥や虫も戻ってきました。しかし、焼却は無くなったものの産業廃棄物の破碎などの処理量は増加しています。木もどんどん切られて林は少なくなっています。

また「日本の里山100選」にも選ばれた三富新田は、関越自動車道の所沢ICに近いことや新しい道路の開通により、畑の中に流通業の倉庫などが立ち並ぶようになりました。

【保全活動】

首都圏30km圏に位置する大規模な平地林であるくぬぎ山について、その歴史的・文化的・環境的価値を継承することを目的として、自然再生推進法（平成14年法律第148号）に基づいて2004年7月、埼玉県・所沢市。川越市・狭山市。三芳町と市民による「くぬぎ山地区自然再生協議会」（当初は準備会）が設置されました。しかし、600人を超える地主の数や、農家と企業の対立などの為に当初目指した「特別緑地」の指定は不可能となり、協議会は殆ど成果を上げる事が出来ませんでした。そして、この間にも木はどんどん切られ、林は墓地や資材置き場になり、不法投棄も一向に減りませんでした。

2013年2月、所沢市は「くぬぎ山」の下富駒ヶ原地区4.7haを特別緑地保全地区に指定しました。現在、市民団体により植物を中心に環境調査を行っていますが、キンラン・コクラン・センブリ・クモキリソウ・オオバノトンボソウなどの絶滅危惧種の存在が多数確認されています。今後は計画を立てて整備を進める予定です。

また、私達「エコネットとみおか」は特別緑地保全地区指定の隣の林（約0.7ha）で枯れ木や常緑樹の伐採、下草刈りを行って冬に日差しが入る明るい林になるように整備を進めています。この林は花の咲く植物はなるべく残して「見て楽しめる林」にすると共に「落葉掃き体験」「観察会」「雑木林コンサート」などのイベントを行っています。その他、周辺の不法投棄の回収、畑（500m²）を借りて無農薬栽培なども行っています。

【狭山丘陵の保全】

一方、所沢市南西部には3,500haの緑地「狭山丘陵」が住宅地の中に島のように広がっています。中央には東京都の水源池である多摩湖・狭山湖の2つ貯水池があり、その周辺は自然のままの緑が保存されています。しかし、昔は田んぼや畑であった丘の外側はほとんど住宅地に変わってしまいました。また、昔は田んぼであった丘に入り組んでいた谷戸（谷）は幅が狭く機械化が困難なために耕作が放置され、斜面を含めて大規模な廃棄物の捨て場になってしまいました。

現在、東京都である南半分は殆ど公園となっています。北側の入間市宮寺・所沢市糀谷・堀之内地区は県立の「さいたま緑の森博物館」（自然そのものが博物館）として整備が進められています。また、「トトロのふるさと基金」のトラスト活動により現在までに所沢市域を中心として22カ所が取得され、整備が進められています。

戦後 69 年目の夏を迎えて思うこと

大谷 恒子

今年は戦後 69 年、来年で 70 年になりますが、なんだかここへ来て急に軍靴の音が聞こえてくるような、きな臭いにおいが立ち込めてきたような感じがしてなりません。

昨年の 12 月に入って「秘密保護法」、今年 7 月に入って直ぐに「集団的自衛権」等々、次々に国の形を 180° 変えるような色々な法律が可決あるいは内閣の解釈の変更だけで決められて行きました。それ故、今年の広島（8 月 6 日）、長崎（8 月 9 日）の原爆の日、終戦記念日（8 月 15 日）は例年になく厳しさと懸念と不安感を持って過ごしました。

昨年、秘密保護法が日程に上り始めた頃から、今年 7 月 1 日の集団的自衛権の行使容認が閣議決定される前後頃まで、それこそ頻繁に（ジャーナリスト、弁護士、学者、元官僚、記者、NGO ボランティアの方々の）講演会、シンポジウム、討論会、集会等に参加しました。テレビ、新聞の記事からだけではわからない、どうしても見えてこない情報、真実を知りたくて、何かに突き動かされるように、なにか目に見えぬ力に背中を押されるようにして出かけて行きました。やはり、参加してみて、多くのことがより鮮明に見えてきました。私が、真剣に考え、気づくのが遅かったのであって、何も昨年頃から、急に国の方向が変わってきたのではなく、もう 10 年以上も前から少しずつ着々と国の形、方向性が変わってきていたようです。国の動き、政治の実態に無関心でいること、漠然と生きているのは、昔のようにいつの間にか戦争をする国になっていたと“いつか来た道”を辿ることになるのだと思います。

常にアンテナを張って、社会の動向、世の中の風潮を敏感に感じ取って、おかしい時はおかしい、イヤなことはイヤ、ダメなものはダメと、はっきり意思表示をし、声を上げ、行動に表していかなければいけないと思います。

昨年、8 月 6 日の広島原爆の日の平和祈念式典と戦跡巡り、10 月、11 月の 2 回にわたる福島原発被災地復興応援ツアー、そして今年 3 月の沖縄戦跡、基地巡りと三つの被災地を視察しました。それぞれの現場に立って、当時の体験談を直接、被爆（災）者の方からお聞きして、一つ共通して言えることは被害者、犠牲者はいつも子供、女性、障害のある方等々市井の人々、無辜の民なのです。

まだ、私が小学生の頃に、大分の祖父（私の従兄にあたる同居の孫を連れて）が毎年 1 回上京して我が家に泊まって、帰っていきました。父の弟（私にとって叔父）三人がそれぞれ太平洋戦争で激戦地のルソン島等で戦死していたので、今にして思えば、靖国に参詣に来ていたのだと解りました。長子の父と末息子を除いて、5 人の息子のうち、3 人までも戦争にもっていかれたのにもかかわらず、戦争に関して、息子たちの戦死に関して祖父は何も語りませんでした。食事の時は同行した孫に必ず「たくさん食べな

いと大きくなれんぞ！」と言い、我が家の当時、大学浪人中の長兄に「勉強しているか？」とだけ言っていたのを、今鮮明に思い出します。沖縄では、一家全滅した家も何軒もあったそうです。ボランティアガイドさんが、車中から「このお宅も一家全滅ですよ」「こっちもですよ」と何回か、まだ当時のまま残っている空家を指して、お話になっていました。広島や長崎、沖縄でも、そして空襲を受けた日本国中に悲惨な残酷なことが数限りなく起こり、また、戦地でもあるいは朝鮮・中国・アジアの国々の人々、国土に甚大な被害と苦痛を与えたのはまぎれもない事実であるのに、歴史の真実を省みずあたかもことによっては、無かったかのようなことを言う人がいるのには信じられません。そういう方には、よくよく歴史を学んで、認識していただきたいと切に願うばかりです。

日本国憲法第12条に「この憲法が、国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。また、国民は・・・云々」とあるのに、私は翻ってどうだったのかと自分に問うてみると、人生70年、平和の世の中、自由や権利を行使できるような社会が続くように、何も努力して来ていなかったとつくづく思い至り、反省しきりです。一度も会うことのなかった若くして戦死した三人の叔父たち、太平洋戦争で亡くなられた多くの日本人、アジアの人々に対しても、日本国憲法第9条①戦争の放棄、②①の目的のため、戦力不保持、交戦権はこれを認めない、を決して空文化してはいけないと思います。平和や個人の自由、権利は努力せずには永久に保持できないのだと、最近の世の中の動き、風潮を見聞きして、実際自分でも「なぜ、これがいけないのか、許されないのか？」と 実体験することが何回かあります。90才近い女性が「自分が小学生の頃、戦争がはじまりました。その戦争前の世の中と、今の世の中そっくりになってきています。戦争は学校から始まると言われていますが、今本当にそうになってきています」と警鐘を鳴らしていました。また別の場所では、男性が「秘密保護法、集団的自衛権、その他余り国の動きに関心の無い人は知らないような、色々な危ない法律が次々に決められていて、もう本当戦争前夜ですよ」と危機感をあらわにしていました。本当に、そのことは決してオーバーではなく、最近とても生きづらい世の中になっていると私自身も感じています。すべての夢をあきらめて、戦争に駆り立てられて行った人々、国内外の何千万という戦争犠牲者の方々のためにも、被害、加害国の一国民として、今の幸せな平和な世の中をずっと享受できたことを感謝しつつ、これからも、この世界が続いていくように、私なりに、微力ながら、出来ることを一つ一つやっていきたいと思います。願わくば世の中の動き、政治の方向等にまったく無関心な人々にも、良く見て沢山の情報を自分から取りに行き、色々な人の多様な意見、見解、分析、解釈を知り、自分の頭で判断してそして行動して欲しいなと思います。とにかく、太平洋戦争で無残にも人生を絶たれたすべての人の死を無駄にしてはいけない、戦争をする国になったら、その方々の死はまさに犬死です。「自然災害は人の力では逃げられないけど、戦争は人が起こすことだから、努力で避けることができます」と誰だったか著名な方がおっしゃってましたが、本当にその通りだと思います。もう二度と戦争によ

り殺し殺されることのないよう、武力と武力が対峙しても何も守れません。日本は、70年前にそれを経験済みなのですから、先の大戦でどれだけ多くの人命が失われ、国土の荒廃と消失を招いたのでしょうか。よもや、もうそれを忘れてはいないでしょうね。「命どう宝（ぬちどうたから）」沖縄方言で「命こそ宝」という意味を日本国中皆が、心にしっかり刻んで欲しいと思います。

第4回講演会 滝之城址近辺の歴史

講師：坂間 和英氏

映像：齋藤 隆雄氏

丸山 隆

総会終了後、恒例の講演会が開催されました。下宿にお住いの坂間氏より今回は隣町、所沢市に位置する「滝之城」、その南側の清瀬市の柳瀬川、下宿などの近現代史や習俗などとても貴重なお話を伺いました。映像担当の齋藤隆雄氏もご一緒されました。

約1時間強のお話でしたが、印象に残ったいくつかのお話をご紹介します。

「滝之城の歴史」

滝之城址は、戦国時代の城郭後で築城時期は、明らかではありませんが関東管領上杉氏の重臣、大石氏が15世紀後半に築いたとされています。その後、北条氏の支配下となり、敵対勢力に対する警戒拠点となり、さらに交通の要衝にも位置していたため、河越（川越）や岩付（岩槻）などへの伝達拠点として重要な役割を担っていた。しかし天正18年豊臣秀吉による、小田原攻めにより落城し、その後は廃城となりました。



滝之城本丸跡（ホームページより）

「滝の城」は本廓（本丸）を中心として、二の廓、三の廓で構成される内廓、とその外側に張り出した外廓で構成されています。

現在は本廓地区に城山神社、周りには滝の城社公園、野球場、テニスコート・・・等があり市民の憩いの場所になっています。そして坂間氏が清瀬小学校の遠足で滝の城址に来たときはまだ城前橋から城跡までは一面田圃であったそうです。

「柳瀬川とアユ」

当時柳瀬川には堰や水車があったのでアユは昇ってこなかったそうです。星野邦蔵市長の時に6、7年続けて放流をしたことで今は毎年、沢山のアユが昇ってくるよ

うになりましたが釣り人の話では去年今年と小さくて量も少なくなったそうです。5月の初旬、朝の4時ごろに川面が黒くなるぐらい大量のアユが昇りそれを狙って鳥が集まる光景が見られる時があるそうです。

「圓通寺」

関越道路の工事で障害になるということで高橋友右衛門清瀬村長のお墓が圓通寺に移設され現存されています。またその墓には俳句が読まれているそうですので今度尋ねてみてください。

「圓福寺」

当時の空堀川はもっとお寺側にありあたりは篠が群生していたそうです。勿論、きれいな湧き水が豊富にあり、また薬草が沢山生えていたそうです。

「東京病院、外気舎」

清瀬の南側、芝山地区は昔、尾張藩の鷹場であったそうです。新河岸川の水運を続ける代償に、当時青梅から馬で石灰を運んで生計を立てていた清戸の人々に入会地であった芝山の土地を分け与えた。そのため町名が細分化され分りにくいので市民から名前を募集して松、竹、梅の文字を取って現在の町名になったそうです。外気舎（市有形文化財）、桜の園は、結核療養所の患者のアフターケアの場所で外気療養、作業療法患者の病舎で当時72棟あったそうですが現在1棟しか残っていません。



また当時、清瀬病院、東京病院の患者とその関係者で多い時は5000人に及んでいたそうです。清瀬の人口の大部分を占めてしまいました。普通選挙法改正の時、市から都にそれでは、おかしいと陳情して其の選挙権に規制をかけたそうです。

患者の中には、俳句の石田波郷や、作家の藤沢周平、吉行淳之助がおられました。

東京病院外気舎記念館（ホームページより）

石田波郷は、外気舎、桜の園で句会を開いていたそうです。中央公園に去年、石田波郷の記念碑が出来ました。毎年10月に清瀬市で石田波郷の俳句大会が盛大に行われています。また藤沢周平は退院後、下宿、中里で長らく生活をしていたそうです。

以上、まとまりのないお話で失礼いたしましたが、パソコンで「川づくり、滝の城址」と検索していただければ、全編がご覧になれますのでどうぞ・・・
それでは坂間和英氏、斉藤隆雄氏にまた次回の貴重なお話を期待しながら・・・

清瀬の水事情物語 (4)

小西 一午

この稿の冒頭から述べてきたとおり水はあらゆる生物を維持する上の基本要素であり、このような水の存在と人とのかかわりによって形成される態様が「水環境」である。そのはじめは洪水調節などの治水機能と生活用水ほか農業・工業等の用水の活用と水運などの利水機能だけだった。それが世界一の大都市に成長した東京の都民の水ガメとして、都は昭和初頭相次いで村山・山口の両貯水池を築き灌漑用水等に使いながら貯水による洪水調節機能としても活用しこれにより両貯水池の別称狭山湖・多摩湖から直接、間接に水を導入していた柳瀬川も堤防が切れて大被害を蒙ることがある程度解消されることになったのであるが、このような自然災害以外に急増した清瀬市の住民による人災の環境汚染の対策が急務となってきたのである。

昭和 30 年代半ば以降を境に、住宅の造成による人口増とともに外来の企業等が多く立地したために、住環境の汚染と自然破壊から清流だった柳瀬川もまたたく間に死のドブ川と化していったのである。こゝで忘れてはならない人が登場する、時を同じくして就任した首長の渋谷邦蔵氏である。昭和 34 年 5 月から 9 期 36 年間の長きにわたって町長から初代市長として清瀬の時代の変革に即応した施策を次々講じていたのである。特にまちの環境美化と自然保護、保全の各種対策の遂行には献身的にその事業施行に没頭され、汚れた柳瀬川を元の美しい川に甦らせたり、市の中心部に清瀬市の象徴たるケヤキロードを築造した等の功績により退任後、清瀬市名誉市民第一号に推載された不世出の名首長だったのである。なおこの市民の心を尊重しその安定した居住環境をつくるために努力する市長の姿勢は、星野繁氏、渋谷金太郎氏と受け継がれて脈々と生き続けている。

さて本稿のメインテーマ水の問題にもどろう。めざましい人口増が進み都近郊の中都市となった当市では市民のために緑と水のきれいなオープンスペースとして自然と共生を図る計画を樹立することが強く望まれてきていた。水の持っている多面的な機能を保全・活用する健全な水環境システムの構築が待たれていた。そこでその先陣は昭和 56 年にオープンした現柳瀬川水再生センター（前身：荒川右岸東京流域下水道清瀬処理場）は、さきに設置された多摩川上流水再生センターからの高度処理水の活用により、それまで空堀だった野火止用水や玉川上水の各水路に清流を復活させたように、清瀬水再生センターのそれも清瀬ほか周辺の東村山、東久留米ほか 9 市地域 8000 近くの水を高度処理してきれいになった水を柳瀬川に還流し、一気にその清流化に役立てていたのである。水処理施設の上部空間は、市の管理する「内山運動公園」として野球場やサッカー場等が、過般行われた東京国民体育大会にも活用される等市民に利用されている。また、センター敷地内にオープンした「清瀬下宿ビオトープ公園」で柳瀬川流域の

豊かな自然環境を復元し、こゝを起終点とする「柳瀬川回廊」が野塩の梅坂橋間の約4kmで自然の生態系を観察する水と緑の回遊空間として整備され、台田の桜並木・サイクリングロード・遊歩道や中里のカタクリ自生地や旧空堀川を改修してできた、せせらぎ公園等が市の自然探訪散策ゾーンとなっている。

きよせの環境・川まつり「川遊び」

金内 彰

2014年「第2回きよせの環境・川まつり」が、7月26日（土）に開催されました。当日は猛暑日となり、参加する子ども達はもとより、炎天下の作業になる担当者の健康が心配されました。

自分の担当部署は「川遊び」です。「川遊び」には、①ボート遊び②いかだコンテストの2部門があります。受付で貸し出されたライフジャケットを身に付けた子供たちは、ボート遊びに夢中です。大きな歓声が飛び交う中でボート遊び、元気な子どもは「十回以上も遊んだよ」といいながら、スタートに向けて駆けて行きました。



子ども達には、炎天下での行動も何の支障もありません。大きなケガ、病気もなく（擦り傷の子どもが一人）済んだことがなによりでした。

楽しいボート遊び

いかだコンテストも5回目になり、毎年参加いただく団体や新しく参加していただいた家族などで賑やかに開催されました。それぞれが趣向をこらした力作に、陸上から応援の声がかかり、楽しいひと時を過ごしました。

ボランティアの皆様は、清瀬高校1年生をはじめ、せせらぎ探検隊、清瀬青年会議所、川づくり・清瀬の会そして個人参加の長網宜幸様にお手伝いいただきました。ボート遊びのスタート係、危険が起こらないように監視する係、ゴール係、そしてゴールからスタートまでボートを運搬する運搬係、担当部門全てが炎天下での作業です。健康を損なう方がいなかったことは責任者として胸をなでおろしました。本当にご苦労様でした。しかし担当者不足は歴然です。来年度は、交代要員を十分に配置しなければなりません。多くのボランティアの参加を望みます。

「きよせの環境・川まつり」も昨年度の反省から会場がコンパクトにセットされたことから、活気ある「まつり」が開催され成功裡に終了しました。

主催者の発表では、当日の参加者は、6525名、川あそび参加者は219名、いかだコンテストに参加団体は6団体でした。

きよせの環境・川まつりを終えて

宮澤 とよ美

環境フェアが川まつりと同時開催 2 年目。本質的に目的の違う環境フェアと川まつりを一緒に開催することに無理があるのではと思いますが、1 回目の反省から会場のレイアウトを変えることにより、どのブースも参加者が増えたことはよかったです。

当会は、戦後から平成の初め頃まで、一気に宅地開発された生活の雑排水を河川に排水、汚濁と悪臭の河川環境から、現在のように水質が改善され、多様な生き物を育む力を持ち、子供たちが安心して川で遊べるようになったのは、都清瀬水再生センター稼働の大きな成果です。清瀬水再生センターは、地形に沿って流れ下って来る荒川流域十市の汚水約日量 22 万 t を COD8 までに処理をし、柳瀬川に放流をしています。その事を参加者誰にも理解して頂きたく、汚水処理の仕組みが解りやすく表現できているパネルを再生センターから拝借し展示をしました。汚水処理のシステムは、ごみ類は下に沈澱させた後、自然に存在する微生物（プランクトン）によって浄化いたします。決められた 24 時間内に水質の良い処理水を柳瀬川に再度戻すために、私たちはなるべく汚れ物は拭き取るなど、処理場を意識した水の使い方を知ってほしいと思いました。

もう 1 枚は柳瀬川会場近辺に多い外来植物のパネルを作成、その 2 枚を水槽の魚と共に展示。近年流れの中にもブラックバス・コクチバス・ライギョ等大型の外来種が目立ち、どちらも在来種の存続を脅かしていること、そして益々の物流がこれからは外来種を増やしてゆくことが予測されます。自然の中に生態系を乱すペットや園芸種を持ち出さないよう話し合いたいと思いましたが、十分ではありませんでした。



当会のさかな、パネル展示場

今回は、清瀬高校の皆さんがボランティアとして川遊びだけではなく、展示場の補助もして下さいましたので、他の展示場等覗くことができました。また今回新しい試みとして実行委員会の中に展示部会を設け、柳瀬川の今昔と豊かになった河川環境に棲む昆虫等 3 枚のパネルにしてフェンスに沿って写真展示をいたしました。近くに説明者が立てなかったこともあるのでしょうか、それとも雰囲気合わなかったか、余り立ち止まって頂けなかったようにも見え残念でした。

これからの課題として、温暖化により地球規模で多発する異常気象、豪雨や干ばつで苦しめられている待ったなしの環境問題を真剣に考え改善してゆくために、何としても温暖化の負の遺産を担う小・中学生の参加を得て、世代を超えて考える場にしていただきますことを強く願っています。

川遊びの原点は・・・「荒川」「花子とアン」の地元・山梨が私のふるさと

深澤 昌子

昨年の流行語大賞は「じぇじぇじぇ」でしたが、今年は「てっ」でしょうか。今年上半期の朝の連続ドラマでは、山梨県出身の翻訳家村岡花子が取上げられています。私は、花子と同じ山梨県の出身です。花子は甲府市の出身ですが、私のふるさとは山梨市です。

山梨市の人口は35,000人ほどで、ちょうど清瀬市の人口の半分です。ブドウや桃の果樹栽培がさかんで、私の実家も桃農家でした。緑が多く、四方は山に囲まれ、果物のおいしいところ。それが私のふるさとです。

大学に進学すると同時に、清瀬市に引っ越して来て以来、20年になりますが、このまちに住み続ける理由もやはり緑が多く、自然が豊かだからでしょうか。

キャンプ、バーベキュー、川遊びばかりの子ども時代

私の実家は桃農家でしたから、夏は収穫時期と重なり、両親が一番忙しい時期です。私は、夏休みに家族で旅行に行くという経験が全くありませんでした。プールや海に行くようになったのも大学に入学してから友達と行ったのが初めてです。

私の夏休みの思い出と言えば、子ども会主催のキャンプです。飯盒炊飯をしたり、バーベキューをしたり、川遊びをしたりと高校時代まで山梨県内のキャンプ場をあちこち行ったものです。

川遊びの楽しさを知った荒川

大学卒業後の就職先は所沢市の学童クラブでした。私が勤務していた学童クラブは、毎年7月の下旬に秩父市にある浦山口キャンプ場でキャンプを行うのが、年間行事になっていました。浦山口キャンプ場の敷地内を流れる荒川で学童の子どもたちと川遊びをすることが毎年の楽しみになりました。

上流と下流で異なる川の流れを楽しみながら行うボート遊び、沢蟹や川に生息する川魚の捕獲など子どもたちと一緒に、時には子どもたちよりも自分の方が夢中になりながら毎夏を過ごしていました。

清瀬の水辺環境をいつまでも豊かに

かつての柳瀬川は、生活排水が流れ込み悪臭を伴う汚い川だったと聞いています。水再生センターの整備などにより公共下水道が整備され、また、きれいな川を取り戻そうと尽力してきたボランティアの人たちの努力によって、きれいな川に生まれ変わった柳瀬川で、毎年川まつりを開催できることは本当にうれしいことです。

川の流れは心の潤いをもたらします。いつまでも清瀬の地を流れる空堀川と柳瀬川が豊かな水辺環境を維持し続けられるように。子どもたちに何十年先までもきれいなままの川の姿で引き継いでいけるように、私たち大人がしっかり守っていかなければと思いつつ、毎年子どもたちと川遊びを楽しんでいます。

ウマノスズクサ (馬の鈴草)

ウマノスズクサ科

田中 くに子



川の土手や、畑のふちなどに生えるツル性の多年草。何年も前になるが、台田団地の柳瀬川の土手や、関越自動車道手前左側のフェンス脇に細々と生えているこの植物を見付けました。土手の草刈があると聞くと杭を立て、まわりの草を刈って守ったものです。

今年柳瀬川の松柳橋を渡って左岸を川越街道へ向かって歩いていた時、足元にこのツル性のウマノスズクサが何本も脇芽を出して大きくのびているのを見付けました。

全体が無毛で白っぽい薄緑、葉は長さ 3~7 cm 先は丸く基部はハート形にへこむ。

花は葉の脇に 1 個ずつつき、長さ 3cm 余り、花弁は無く小豆色の先がとがった長いラッパ状の筒形のがくがあり、筒の下部は球状に膨らむ。

筒の内側には長い軟らかい毛が入り口と反対側に向って生えている。

球状に膨らんだ中に花柱とおしべがあり、子房はこのふくらみの下にある。この形をしているのでなかなか結実しにくい、果実の様子を馬の首につける鈴に見立てて、日本名を (馬の鈴草) という。

この植物は、ジャコウアゲハの幼虫の食草、水再生センターのビオトープ公園に移植したウマノスズクサが根付き成長しています。

今年はここで育った成虫もいて、7 月中頃に公園内の満開のネムの花で吸蜜するジャコウアゲハを何匹も目撃しました。

分布：関東以西、四国、九州

花期：6~8 月

ジャコウアゲハの幼虫の生活

卵の殻を食べる一令の幼虫。次は葉を食べ、最後は茎を食べて蛹になる。今年我が家の花壇のウマノスズクサ (友人より頂いたもの) が茂り、7 月中頃沢山の幼虫がいて、餌が足りなくなるのではと心配して観察していました。8 月初旬の日照りが続いたころ、よく見るとウマノスズクサも幼虫も見当たりません。

他の場所で蛹になるので近所を探したら、ススキやワレモコソウに何匹かの美しい黄色の蛹を見付けることが出来ました。成虫はその後、姿を見せてくれています。



川と温泉 ⑥ (つたの湯)

木村芳信

日本には、川（海）の近くに温泉が数多くある。その中でも露天風呂が好き。今回は、ドライブで立寄った長野県の道の駅（信州葛木宿）に併設された“つたの湯”を紹介します。8月、暑い、涼しいところ、山しかない、行こうと決めて蓼科、諏訪、清里方面を1泊2日でよしちゃんを連れてドライブしてきました。

諏訪湖より国道20号線を下り八ヶ岳のふもとに温泉があります。道の駅の脇を釜無川が流れています。私が訪れたときも河原でキャンプしている方が大勢おりました。意外なことに、流木をキャンプしている人に提供していることでした。（使っている人は見かけませんでした）私たちの街を流れる柳瀬川では考えられないことです。

私も愛犬（柴のよしちゃん）とひと時、石投げ（川の浅瀬に石を投げ拾ってくる）川遊び（よしちゃんの犬かき）をして遊びました。（後日談 よしちゃんは、この後おなかが冷えたのかひどい下痢になり、動物病院のお世話になりました（反省））

遊んだ後は温泉ですね。露天風呂につかりのんびりと山々の景色を眺めるのは絶景です。



浅瀬に投げた石を拾う



露天風呂 (ホームページより)

泉質は、ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物温泉です。

温泉の後は食事です。道の駅の食堂に入りここでのお泊りと決めて冷たい一杯で食事です。キャンピングカー、自家用車、バイク、自転車での道の駅にお泊りの方はこの時期多いです。（道の駅は原則お泊りを認めていません。あくまで休憩です）

若い人は、寝袋1つで芝生の上でお休みです（驚嘆）。私と、よしちゃんは車の中でお休みです。高速のドライブもいいですが、下の道のドライブも楽しいです。この原稿が皆様の目に留まるころは、紅葉の季節が始まります。今回は福島、新潟の山々の紅葉を見に行く予定です。次回は紅葉、川、温泉をテーマにしたいと思います。

- ※ 釜無川 山梨県西部の川。富士川上流部の呼称で、笛吹川との合流点までを指す。全長64km、流域面積1078km²。山梨・長野県境の駒ヶ岳(甲斐駒ヶ岳)西方の鋸岳(2607m)に源を発し、甲信の境を北流したのち流路を南東に変え、八ヶ岳すそ野の断層線に沿って流れ、大武川、小武川、塩川、御勅使(みだい)川を合流する。中巨摩郡竜王町で甲府盆地に出て盆地西部を南流し、西八代都市川大門町で笛吹川と合流する。支流はいずれも標高2000m以上の山を源とするため平均河床こう配は1/5~1/8と急峻である。

我が家の動物記

戸塚 弘

犬について

我が家の動物記は犬から始まる。犬は家族の一員でもある。我が家は子供が一人っ子のため、子供の相手と楽しみを求めるために仔犬を飼い始めたのが第一歩である。

「マキ」という名を付けた2kg程度の仔犬(ヨークシャテリア)で、気は強く、優しく、賢く可愛らしい犬であった。娘が床に入る時「マキちゃん」と呼ぶと、一緒に床につき、寝付くまでお守りして寝付くと帰ってくる毎夜でした。「マキ」は二匹の子供を産み、その一匹は義姉の処に行きましたが、いたずらが過ぎて我が家に戻され、結局「マキ」



が面倒を見ていました。その犬の名前は「レディー」です。その後「マキ」も「レディー」も亡くなりました。娘も大きくなったことと、犬が亡くなって別れる時の辛さは堪えられないので、再び犬を飼うのは止めようと思いましたが、なんとなく自然に「ペットショップ」に足を運んで犬小屋に一匹取り残された可哀想な「ヨークシャテリア」の仔犬を見付け買い求めてしまいました。ところが家に連れて帰

るとその犬は病気に感染して弱っている状態でした。かかりつけの獣医に返した方が良いのではないかと助言されましたが、すでに馴つき、可愛くなり手放すことは出来ず、一生懸命看病して元気にさせたのが三代目の「レディー」です。

大型で丈夫に育ち、いつも近くの金山公園に散歩に行くと飛び廻っていました。夜は私達の寝床に入って寝るので、時に枕元に居るときに寝返りをすると犬を強く押さえつけてしまい、驚いた犬に顔や手などを噛みつかれて良く病院で治療していたので、医師や看護師に笑われていました。

三代目「レディー」は17年の長生きでした。一代、二代の眠る霊園に葬りました。私達の年齢の事を考え、寂しいけれどこれ以上犬を飼う事は諦めようとなりました。ところが娘が、お母さん達がボケになっては困るし、寂しいからと言って、また同じ「ヨークシャテリア」の仔犬を買って来てくれました。それが現在二才になる四代目の「レディー」です。その後、娘夫婦も茶色の「プードル」の仔犬を買い、その名を「麦」と名付け、更にその半年後にやはり同じ色のプードルの仔犬「ホップ」を買い、今は我が家では三匹が飛び廻る遊び場となり、楽しい反面苦勞する日々です。



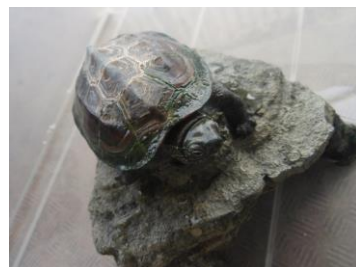
スッポンについて

九州の熊本に出張の折、スッポン料理店にてスッポンの赤ちゃんを二匹買い、我が家の水槽に入れ、段々と大きくなるのを見守りました。越冬等もあり大変でしたが、一匹

は死んでしまったものの、二匹目は元気に育ちました。首が長くなるので餌を与えるのには、噛み付かれないようにと注意が必要でした。また、水槽の蓋を突き上げようとするので、夜中に逃げ出されてはと心配もしました。四年目位で大きくなりましたので、人に譲ってしまいました。

カメについて

カメは妻が行きつけの美容院の店長さんから譲り受け最初の二匹はうまく育てられなかったものの、三匹目の「カメ吉」は元気に育ち続けています。毎年越冬時は心配となります。餌は十二月頃から翌年の二月末頃まで食べてくれず、春になって餌を取るまで気掛かりです。人に馴れていて頭を撫でると嬉しそうです。



カエルについて



最初は大きめのイボがある、茶色のヒキガエルで名前は「ロジャー」といいました。“グウアー〜”と変な声で鳴き、触るのも嫌でしたが、そのうちだんだんと可愛いと思える様になりました。しかしその後、越冬がうまくいかず死んでしまいました。しばらくしてカエル好きの娘が、綺麗な緑色の「モリアオガエル」のつがいを買って来てくれました。名前は「ケロちゃん」と「コロちゃん」です。モリアオガエルは、樹上性のカエルで泡状の卵を木の上に産み、オタマジャクシは下の水中に落ちて育つのです。緑色となるので何処にいるか見付けにくい程です。

ヤモリについて

20 cm位の大きさで「ヒヨウモントカゲモドキ」という種です。名前は「よねちゃん」といいます。熱帯性なので、冬には温めておく必要があります。良く知られていないと思いますが、ヤモリも脱皮します。「よねちゃん」は2か月に3回位のペースで脱皮しています。



コオロギについて

コオロギはカエルとヤモリの餌です。カエルもヤモリも生きて餌が必要なのでこの飼育が大変です。大きな水槽に土を敷き詰め、隠れ場所と野菜と水を与えて飼育しています。インターネットで、100g単位で買うので一回に200匹近く届きます。死ぬのが多く逃げ出すのもあり、犬がつけだして追い回してもいます。一年中コオロギの鳴き声が聴こえるのには悩まされますが、風情もあります。

蛇について

蛇と言うと殆どの方は毛嫌いしますが、我が家の蛇は「ガータースネーク」という種類の白蛇で、目が赤く胴の太さは小指程度、60cm位の大きさです。名前は「ジョコビ



ッチ」といい、思ったほど冷やっとしていません。以外と可愛い生き物で馴れると安心して触れるほどです。結構、蛇は嫌いだと言って来られた人達も手に取って触っています。餌は「ピンクマウス」といって、生まれたばかりのマウスの仔を冷凍したものを

を温めて与えます。大きな口を開け飲み干すと胴が膨らみます。たまに脱皮をしますが、金運アップのためにその抜け殻を欲しがるといいます。

蛇は清瀬市のシンボルとされ、特に白蛇は健康と人生の安全を守るものと尊重されています。

以上が我が家の動物記です。

今後これら家族と楽しく過ごしていきたいと思います。

◆2014年 活動記録（1月～8月）◆

- 1月 9日(木) 第9回幹事会（新合流点、会誌22号、新年会ほか） 宮澤、戸塚、木村、金内、丸山、田中、加瀬、大谷(2) * 齊藤市議、平田氏（東村山市）、
- 1月13日(月) 川の再生交流会（さいたま市民会館）加瀬、大谷（恒）、宮澤
- 1月17日(金) 新年会（同心居） 渋谷市長、中澤副市長、森田正英、齊藤実、宮原理恵、渋谷信之、深澤昌子、宮澤、大江、小西一、田中、星野、松崎2名 矢島、正木、戸塚、丸山、金内、木村、大谷(2)、軽部、平田（東村山）
- 1月21日(火) 編集会議（会誌22号）金内、丸山、木村、大谷(2)
- 1月23日(木) 会誌・製本印刷 加瀬、宮澤、木村、丸山、金内、大谷(2)
- 1月28日(火) 新河岸川流域連絡会（野塩地域市民センター）宮澤、加瀬、大谷（恒）
- 1月29日(水) 講座「多自然川づくりの技術」吉村伸一氏ほか（国立オリンピック記念青少年総合センター4階）宮澤、大谷（恒）、加瀬
- 2月 6日(木) 第10回幹事会（26年度事業計画（案）、環境・川まつり、水際植栽ほか）
- 2月 7日(金) 講座「多自然川づくりの技術」講師；島谷幸宏氏ほか（さいたま新都心） 宮澤、加瀬、大谷（恒）
- 2月18日(火) 空堀川の樹木剪定立ち合い（北々建）宮澤、大谷（恒）
- 2月25日(火) 第2回北々建との新合流点工事について話し合い（中清戸市民センター）（北々建）根津課長、牧野係長、石井氏、（市）黒田部長、渡辺課長
川づくり会：宮澤他15名 守る会：今泉他5名
- 3月 6日(木) 第11回幹事会（総会用資料、環境・川まつり、空堀川清掃他）
- 3月 9日(日) 空堀川の清掃（梅坂橋・親水階段前）大貫、関口、市川（レンジャー）、木村隆文、木股、須藤、酒井、菅原、松崎（丸松）、大島、大竹兄弟 大江、丸山、金内、木村、宮澤、加瀬、田中、大谷(2)

- 3月16日(日) 柳瀬川の再計測調査(新合流点) *宮澤、正木、藤岡、菅原、木村、小西(美)、加瀬、大谷(恒)
- 3月19日(水) 北々建との第2回新合流点工事話し合い(コミュニティープラザ)
(北々建)根津課長、牧野係長、石井建) 小西、深澤、渋谷各市議、川づくり会:宮澤他8名 守る会:今泉他5名
- 3月26日(水) 河畔林保護署名用紙の印刷・配布 *金内、加瀬、木村、宮澤、大谷
- 4月2日(水) 吉村伸一先生を清瀬市がお迎えする。その後市庁舎で先生を囲んで話し合い。
参加者:黒田部長・渡辺課長 齊藤実市議・正木・加瀬・早川・平田・木村・戸塚・宮澤
- 4月3日(木) 第12回幹事会 ◆総会の進め方、河畔林署名活動他) *宮澤、加瀬、戸塚、金内、木村、丸山、大谷(2) ◆お花見(幸楽)参加者22名
- 4月11日(金) 植栽地へ桜苗1本植樹(大松氏、佐々木氏寄贈) *木村、宮澤、大谷(2)
- 4月12日(土) 河畔林署名活動(金山緑地公園) *金内、田中、加瀬、大谷(郁)、
- 4月13日(日) " " (") *木村、宮澤、大谷(恒)、加瀬、
- 4月15日(火) 河畔林署名の集計作業 *齊藤市議、木村、田中、戸塚、加瀬、宮澤、田島、丸山、大谷(郁)
- 4月26日(土) 総会資料準備・点検
- 4月27日(日) **第15回総会**(活動センター) PM1:30~PM2:40 会員参加者:25名
来賓:中澤副市長・廣澤六都科学館 GM氏・藤井氏 大熊氏
新入会員:齊藤正彦氏 松下文洋氏 鈴木喜代子様(3名)
※全ての審議事項可決 新幹事:正木氏承認される
- 講演会** (活動センター) PM2:50~PM5:00 ◆テーマ:城之址公園近辺の歴史
講師:坂間和英氏、斎藤隆雄氏 詳細は本文をご覧ください。
- 5月1日(木) 26年度第1回 幹事会 5・6月行事の打合せ 星野輝子様参加
※朝日新聞高橋記者 柳瀬川・空堀川新合流点計画の取材
現場案内:木村、加瀬、田中、宮澤
- 5月4日(日) 金山橋バーベQのところで署名集め 加瀬、宮澤
- 5月12日(月) 北々建への質問状提出。副市長のところにも届ける。
- 5月13日(火) 緊急幹事会 16日東京都との話し合いに先駆けて合流点の件
建設局総務部部長に山下都議氏話を通してくださる。これからの話し合いの継続と設計の変更もあり得ることを確認して頂く。星野、田中、金内、齊藤・渋谷・宮原市議、戸塚、木村、宮澤 ※西崎さん新入会員
- 5月15日(木) 中澤副市長から合流点について、北々建の対応を伺う。北々建の分水施設についての強硬さを知る。
- 5月16日(金) 第4回 北々建と話し合い
(川づくり会)金内、戸塚、宮澤、加瀬、木村、齊藤、早川、小西、宮原
(市)黒田部長・渡辺課長 (北々北建)荒川課長、富澤課長補佐、牧野係長、石山氏
- 5月18日(日) 午後活動センターの総会 加瀬、鈴木、宮澤 後・水質調査用意

- 5月20日(火) 午後；合流点雨の後増水状態モニタリング 木村、宮澤
- 5月22日(木) 吉村先生から 5月1日頂いたパワーポイントを東京都にお渡しするようメールを頂く。
(6月5日北々建に持参、必ず検討を約束して課長にお渡しする)
- 5月25日(日) 柳瀬川一斉清掃。参加者：8名 ごみ多く北々建処理願い
- 5月27日(火) 環境フェア実行委員会 役割分担・チラシ・ポスター決定 学校への配布決定。
宮澤、金内
- 5月28日(水) 朝日新聞多摩版に合流点の件掲載。
- 5月30日(金) 放射能測定のため空堀川の砂取り3箇所採取。
- 5月31日(土) 署名約3600名のコピー 加瀬、大谷、宮澤
- 6月1日(日) 朝霞に水質調査の材料受け取りとりと、測定箇所の変更と確認 加瀬、宮澤
- 6月2日(月) 水質調査用パケットテストNO2 Nh4 COD PH 購入。
※署名のまとめ。3576筆(川づくり:3356筆 守る会:220筆)
- 6月4日(水) 春日部の大落古利根川の川の再生の見学 木村、加瀬、宮澤
- 6月5日(木) 第2回幹事会 今年度の活動について
※北々建流域連絡会 署名3600筆を委員の皆様と荒川課長に提出。
※吉村伸一氏を再度流連のアドバイザーさんにお迎えくださるようお願い出る。
- 6月12日(木) 環境・川まつりのチラシ小学校校長にお届け。宮澤、田中
- 6月16日(月) 7:00:北朝霞にて、新河岸連絡会、加瀬、宮澤
※法政大の先生による水質調査のありかた。本局計画課から牧伸介氏参加。
- 6月17日(火) 北々建鈴木係長、佐々木氏・業者 空堀川維持管理下見に立会い 宮澤
- 6月19日(木) 植栽地の草刈。木村氏刈払機で、大谷、酒井、宮澤 4人
(新確認種) ツルマンネングサ カラミンサ(シソ科)が物置の下から出てくる。
- 6月20日(金) 午前水質調査の集計と整理。 加瀬、田中、大谷、宮澤 作表；木村氏に依頼。
- 6月23日(月) 柳瀬川の放射能測定結果を石井教授・吉井教授にご指導をいただく。
※カリウム(K) -40 セシウム137と134 共に安全圏。
- 6月26日(木) 小倉氏・左倉さんに合流点現場を案内。5時から副市長にお目にかかり、重ねて合流工事による河畔林保護を北々建に働きかけてくださいますことを確認。宮澤
- 6月29日(日) 空堀川清掃。増水のため左岸のみ。木村、大谷2、加瀬、宮澤、酒井、高田、菅原
高橋貴子(初)
- 7月3日(木) 第3回 幹事会。◆環境・川まつりの役割分担 ◆合流点工事について
- 7月12日(土) いい川づくり・いい街づくり 主催；空堀川に清流を取り戻す会 会場；東村山福祉センター 松下、加瀬、宮沢、田中、大江、今泉、新井先生 清瀬から7名参加
- 7月16日(水) 川まつり 役割分担について打ち合わせ 金内、丸山、加瀬、田島、大谷、宮澤
- 7月18日(金) 北々建と話し合い 星野、戸塚、正木、大谷、加瀬、斎藤、木村、早川、宮澤、田中(守る会) 藤岡、富田、今泉 北々建：荒川課長、富沢課長補佐、牧野係長、石山氏
※分水施設について「水理模型実験結果を重視」から1歩も出ない。

- 7月19日(土) 北々建へ18日の説明会を受けて4項目の質問書提出。
- 7月25日(金) 環境・川まつりに必要品・パネル等会場に運搬。 会場で水質調査と草刈。金内、丸山、大谷、加瀬、宮澤、田島
(明朝：矢島氏、増田氏、大竹君 展示用魚取 金内、大谷、丸山)
- 7月26日(土) 環境・川まつり 快晴 35度 スタッフ8時集合。水再生のパネルと外来種植物2枚展示。 当会総力で川まつり協力。参加者28名 他に日本工営；鎌田、吉田
水再生；前鈴木課長補佐来賓 清瀬高校ボランティアさん、川遊びおよび展示部門も協働。
展示後のアユ・オイカワ・ヌマチチブ・モクズガニ等 適量を多摩六都科学館、廣澤氏、藤井氏にお渡しする。
- 7月30日(水) 北々建に次回の早い話し合いの要求と、質問に対して書面での返答を求める。
- 8月5日(火) 分水工について副市長と打ち合わせ。分水工どこまでなら妥協できるか？
副市長交渉に14日北々建への予定。斎藤市議、宮澤
◆午後；北々建四市流連 加瀬、宮澤
- 8月6日(木) 6時、「善福寺川自然護岸の河畔林保護」の相談に2人来市。署名用紙預かり木村、宮澤
- 8月7日(金) 第4回幹事会 川まつり反省と合流点对策。善福寺川自然護岸の署名を幹事に依頼
- 8月16日(土) 北々建より7月19日の質問書に対して、解答書受け取りと、説明会の映像の紙焼き同封される(要求していたもの) 吉村先生、島谷先生、今泉氏に送る。
- 8月18日(月) 北々建より7月の質問に対して書面にて返答受け取り。具体性何もなし。
次回話し合い、9月3日。
- 8月23日(土) 柳瀬川の清掃と生き物調査。 小学生5名 中学生4名 当会：田中、加瀬、田島、大谷2、宮澤、酒井、田島、松村健二、大竹君大活躍。
- 8月28日(木) 中澤副市長、斎藤市議 柳瀬川・空堀川合流工事の見通しについて話し合い。 宮澤

事務局だより

大災害の多い異常気象の続く昨今です。治水を目的とした、柳瀬川・空堀川合流工事も予定通り24年度着工、しかし25年度からの工事が計画になかった緊急用車両通行のための橋の建設計画によって大巾に遅れています。

そのために課題の多い設計に対して、清瀬市行政や当会の要望も無視、河川管理者の計画通りに進めようとしています。掛替えのない河川景観・河川環境を後世に残すことは当会の使命かと思えます。破壊されてしまえば再生の困難な左岸を守るために最後まで北々建に話し合いを求めて行きます。

◆柳瀬川の清掃と生き物調査

8月23日(土)に社協のボランティア体験生受入事業として、柳瀬川の清掃と生き物調査、水質調査を実施いたしました。河床がかなり広く礫河原となり(流芯が左岸によるためか)水の中と違いゴミは拾いやすいのですが、初めてのことで。

水質調査

NO₂-N(亜硝酸態窒素) : 0.005 mg/L (ppm) NH₄-N (アンモニア態窒素) : 0.2 mg/L
PH : 7 COD (D) : 2 mg/L (ppm) EC (電気伝導度) : 210 良好な水質です。

生き物調査

モクズガニ 6 匹 (6cm:2、5 cm : 2、4 cm : 2)、ヌマエビ、ヌマチチブ、ウキゴリ、
アユ (15 cm、14 cm、12 cm、11 cm、9 cm 多数)、オイカワ (♀大 14 cm~8 cm、♂12 cm~7
cm 多数)、目視 : ライギョ、コイ。

今回は、増田氏・矢島氏の投網が中心、オイカワ・アユが中心です。

◆近々の行事予定です……ご参加お待ちしております

9月27日(土) ※清瀬市民活動センター展示発表会

9月28日(日) ・両日とも : 11時から「柳瀬川の魚」の展示をいたします。

10月19日(日) ※清瀬市民祭り

・当会が団体加入していますダイオキシン市民協が消費センター1Fに
緑の重要性やごみ減量について出展します。お立ち寄りください。

11月8日(土) ※第4回 きよせふれあいまつり 10時~14時(雨天決行)

・場所 : 清瀬市コミュニティプラザ(ひまわり)

11月9日(日) ※市内一斉清掃 柳瀬川の清掃を行います。

・集合 : 下宿地域市民センター駐輪場 9時(雨天中止)

◆新会員紹介

齋藤正彦氏(上清戸)、松下文洋氏(新座市)、鈴木きよ子様(下清戸)、
西崎典子様(下清戸)、今泉安広氏(入間郡毛呂山町)

編集後記

本年度より会誌の発行が年2回に変更になりました。(昨年度 : 年3回)

本誌23号が9か月ぶりの発行です。本誌にも多数の寄稿をいただきましてありがとう
ございました。おかげさまで、内容豊かに発行できましたこと心より感謝申し上げます。
お読みいただきましてのご意見をお待ちいたします。

次号の(24号)発行は、2015年1月を予定しております。当会唯一の交流誌として、
皆様からの投稿をお待ち申し上げます。

川づくり・清瀬の会 事務局 : 木村方

〒204-0003 東京都清瀬市中里 1-745

電話番号 042-491-1324 E-mail kimeray@violet.plala.or.jp

ホームページ <http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>

